

日下部 祐子 (くさかべゆうこ)

華頂女子高校音楽科を経て京都市立芸術大学音楽学部卒業。

同大学院修士及び博士(後期)課程修了と共に博士号。

友愛ドイツリートコンクール第1位、飯塚新人音楽コンクール第3位。文部大臣奨励賞・関西日仏学館賞他受賞。

オペラでは《魔笛》(パミーナ、パピゲーナ)、《フィガロの結婚》(スザンナ、伯爵夫人)、《ドン・ジョバンニ》(ツェルリーナ、ドンナ・アンナ)、《コジ・ファン・トゥッテ》(デスビーナ)等モーツアルトの主なレパートリーの他、《ボッペアの戴冠》(ドゥルシッラ)などバロックオペラ、《リゴレット》(ジルダ)、《椿姫》(タイトルロール)、《愛の妙薬》(アディーナ)、《ジャンニ・スキッキ》(ラウレッタ)、《スザンナの秘密》(タイトルロール)他のイタリアオペラ、《子供と呪文》(火の精)、《シンデレラ》(妖精の女王)、《テレジアスの乳房》(タイトルロール)等フランスオペラ、《源氏物語》(紫の上、葵上)、《白狐の湯》(角太郎)、《岩長姫》(此花咲耶姫)、《火の鳥》(タイトルロール)他現代邦人作品やロンパーゲ《学生王子》(ケティー)まで、幅広いレパートリーを歌って高い評価を得ている。

また宗教曲やオーケストラ・合唱作品、室内楽の分野でも関西を中心に全国、ヨーロッパ各地でソリストとして活躍。

メシアンやジョン・ケージなど現代作曲家の作品も多数演奏するほか、実験的・前衛的な作品や新作の初演にも精力的に取り組んでいる。

録音ではファーストアルバム日本歌曲集《初恋》、ドイツリート集《放浪う魂の憩う所》、イタリア語の詩に魅せられた作曲家たちのシリーズによる《Amori》の3枚のソロアルバムの他、ライフワークとしている現代作曲家作品のCD録音にも多数参加している。

華頂女子高校音楽科芸術顧問、京都市立芸術大学非常勤講師、関西歌劇団理事。

河野 美砂子 (こうのみさこ)

河村美千子氏、梅田志づ氏に師事、京都市立堀川高校音楽科にて島崎 清氏、京都市立芸術大学にて鈴木良一氏に師事。芸大卒業後、井上直幸氏に師事。82年～83年、ロスアンジェルスにてJ.ペリー氏に師事。その後渡欧、83年～84年ウィーン国立音楽学校のE.ウエルツ教授の歌曲伴奏のクラスに通う一方、フライブルクのピヒト＝アクセンフェルト女史のもとでさらに学ぶ。

85年帰国後、ソロリサイタルシリーズ【シューベルトとシェーンベルク】を五年間にわたり開催、95年および96年には、そのまとめとして二晩にわたる連続リサイタルを、京都、大阪、東京にて開催した。室内楽の分野では、P.カルミレツリ氏(元イ・ムジチ合奏団主席ヴァイオリン奏者)を始めとする内外のソリストとの共演の他、ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全10曲、同チェロソナタおよび変奏曲全8曲、同ピアノトリオ全曲演奏会【ベートーヴェンとの対話】等をシリーズで企画演奏した。その他、オーケストラとの共演、通奏低音(チェンバロ)等。また、フォルテピアノによる、シューベルトの室内楽演奏会等を開催した。88年淡路島国際室内楽コンクール優秀賞。

06年、ソロリサイタル【モーツアルトに会いたい】を京都芸術センター講堂にて開催、従来とは違った形の音楽会が反響をよび、シリーズ継続が決定。詩人の谷川俊太郎氏の朗読との共演など、09年まで全6回の演奏会を開催した。2010年より2台のピアノによる【モーツアルトピアノ協奏曲全曲演奏会】シリーズを開始、第5回(21番～23番)は、2014年3/29、3/30開催予定(共演=上野 真氏)。また、ミニ演奏付き講演会を06年より開始、「作曲家シリーズ」や「和音のフシギ」「日本人とピアノ～絶対音感って?」など多彩なテーマを取り上げている。

97年より02年まで大阪音楽大学大学院(室内楽)非常勤講師、2000年より04年まで京都市立芸術大学短期大学部(芸術学)非常勤講師、

95年より現在まで京都市立芸術大学音楽学部(ピアノ)非常勤講師。

また、短歌にも興味を持ち、92年搭短歌会に入会。95年第41回角川短歌賞受賞。

04年第一歌集『無言歌』(砂子屋書房)を刊行。同歌集により第5回現代短歌新人賞受賞。

アトリエ ワム 〒603-8227 京都市北区紫野北舟岡町 41

【千本北大路】、または【千本鞍馬口】から徒歩4分。

千本通りから、東に入って4軒目です。

●「千本北大路」、「千本鞍馬口」までの経路

◎ JR 京都駅より、地下鉄「北大路」駅下車(約13分)。

「北大路」駅の、市バス【青のたま】より乗車
(「北1」と「37」を除く、すべてのバスに乗車OK)。

「千本北大路」まで約10分。

または、地下鉄「北大路」駅 ⑥番出口より、タクシーで2メーター。

◎ 阪急「太宮」駅下車。

市バス「四条大宮」停留所(北行き・「王将一商店」前)より

【6】【46】【206】にて、「千本鞍馬口」まで約20分。

